

会議録

会議の名称	令和２年度 第７回座間市地域包括ケア会議		
開催日時	令和 ２年１０月１３日（火） 午前１０時００分～１２時００分		
開催場所	座間市役所３階３－１会議室		
出席者	越山委員、落合委員、高間委員、川南委員、後藤委員、松永委員、平原委員、金子委員、宮田委員（欠席）新井係長（危機管理課）		
事務局	健康部介護保険課 小林係長、植野主事補、吉川社会福祉士		
会議の公開可否	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input checked="" type="checkbox"/> 非公開	傍聴者数	０人
非公開又は一部公開とした理由	座間市地域包括ケア会議開催要綱第６条に該当するため		
議題	１．危機管理課との意見交換		
資料の名称	・防災マップ（平成25年度作成）		
会議の結果			
議題１	各包括の状況を共有し、災害・防災について現実的なことを知る機会となった。今回の内容を地域包括ケア会議及び在宅医療推進協議会「親会議」で周知する。「親会議」で委員から提案や危機管理課より新しいマップが配布されたところで改めて問題があれば考えていく。 情報共有と周知が課題であるので、今後ケアマネジャーや自治会、民生委員、事業所等から危機管理課の話を聞く機会を計画していくことが必要となる。		
議事の概要			
事務局	令和2年度 第7回座間市地域包括会議を開催する。		
	議題１について		
委員	危機管理課より災害と防災についての概要説明。		
危機管理課	周知してほしいこととして、 ① 台風と地震の避難は分けて考える。 ・洪水・土砂災害時は、危険エリアにしか発令はしない。危険なところにいない人は自宅待機してほしい。 ・地震災害は、地震後に被災状況がわかるので、発令時期が異なる。		

	<p>② 避難場所と避難所は用途が異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所は被害を受けていないが、身の安全のために避難する所で、必要な食糧や水分等は各自準備するところ。 ・避難所は災害により、自宅で生活できない人、被災者が生活する場ということである。
委員	<p>防災マップをみてピンク色の地域が土砂災害区域で水色の地域が水害区域である。これ以外の人基本避難対象者ではない。地区の住民から連絡がきたときの対応がチャートになっているとよいと思われる。</p>
危機管理課	<p>マップは平成25年度作成のもので、新版を現在作成中。年度内にはA1版で全戸配布予定である。</p> <p>市のHPよりフローを用いて、危険区域にいる人の避難方法をアップしているが、周知されないのがネックで、認識が広がらない。</p> <p>土砂災害時に住んでいる人は良く理解している。平成25～26年に地域住民説明会を実施している。</p>
委員	<p>台風19号のとき、ダム放流に伴い、市から施設には入所者を1階から2階に移すよう指示があったが、一般住民に対しては何か指示をしたのか？</p> <p>一般市民の避難は包括の仕事であると思われるが、何もできず、台風後に様々な意見を頂いた。マップを見ると水色地域なので、日頃から命を守ることを優先し、危険な区域から出ることを一番に考えておかなければならないことが理解できた。</p>
危機管理課	<p>台風19号を教訓として</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 市はより速く情報を伝達することは、施設利用者も一般市民も同様である。 ② ダム放流については、神奈川県は正確な情報媒体を整理し、2・3日前から情報を流すシステムとなっている。 ③ 水害時の避難場所は国の基準によって定められているので、低い場所に位置していても開設されていれば安全である。 <p>館内に限らず車できて校庭にいただけでも避難となる。入谷小学校、座間高校は1階でも安全である。マップの水色区域は日頃から保障されている避難場所の案内情報を流しておく必要がある。</p> <p>マップの水色区域やピンク色区域から出ることが大切となる。</p>
委員	<p>避難場所のキャパシティーはどのくらいあるのか？</p>
危機管理課	<p>土砂災害においては、危険区域の人を収容できる。</p>

	<p>洪水においては、全ての公共施設を開放すれば収容できる。</p> <p>新版のマップには、連絡先と避難場所と避難所の違いについて明記してある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難場所：一時的に逃げる場 ・避難所：自宅改修や仮設住宅に入るまでの生活の場であり、生活支援を実施する。 <p>「逃げられない」と市に連絡をもらっても何もできない。日頃から近隣との関係作りをしてもらい、地域に頼っているのが現状である。</p>
委員	<p>若い世帯は、情報のキャッチが早いが、情報弱者と言われる障がい者や高齢者は取り残されてしまう。何日も前からＴＶで放映されていても現実身がなく、現実的になった時に慌てる。逃げられないという人に限って事前の準備がない。包括としても災害の中動きがとれないのが現状である。日頃から、家族、地域等のコミュニティ作りをしてどれだけ準備できるかが課題となる。</p>
委員 事務局	<p>市として、避難難民の実態把握はできるのか？</p> <p>実態はどこの課からも出せない。福祉長寿課の災害時登録も自己責任で自ら登録してもらい、事前からの備え、準備をしておくことを言い続けるしかない。</p>
委員 危機管理課	<p>発令はどのくらい前からできるものなのか？</p> <p>気象庁は促しのみである。</p> <p>風水被害については半日前に市長が発令し、早めの避難を呼びかける。学校の中止も市の判断である。河川の氾濫については、基準水位に準じて指示をだしている。現在はパソコンで確認できる。</p>
委員 危機管理課	<p>発電機の備えは？</p> <p>ガソリンタイプのもので一基である。酸素吸入等の対応はできない。</p>
委員 危機管理課	<p>避難所の備蓄庫には何があるのか？</p> <p>毛布・簡易トイレ・シート・調理器具・救助工具・タンカー・リヤカー・パンクしない自転車</p> <p>水２０，０００本・食糧は８５，０００食を市（旧消防署）で管理している。</p> <p>座間市は水は豊富で、中原小学校以外に地水タンクが１８基ある。</p> <p>５０～６０トンあり、給水拠点となっている。</p>
委員 危機管理課	<p>栗原の遊水地はどのような役目があるのか？</p> <p>雨水をプールして、目久尻川の氾濫を防ぎ、道路を灌水させない場所</p>

委員	である。新田宿地域は40mm降ると浸水する地域である。
危機管理	台風の時は毎回土嚢を積んでいる。
委員	土嚢は市の地下2階の駐車場に800袋備蓄しており、無料配布している。受け取りに来てもらい、使用後の処分は各自にお願いしている。
委員	マップを見て、危険地区にある施設は日頃から何かあった時の対策は法人として考えておく。
委員	貴重な話を聞くことができたが、今後何をするのか？ ある県では、ケアプランに災害時の避難場所や緊急の連絡先、手助けしてくれる人、避難時の荷物準備等について明記している。
委員	また、避難時の個別支援計画について市から補助金（3,500円）を出してプランを作成しているところもある。
事務局	災害時の避難場所等について周知されていないことが課題であり、ケアマネジャーが避難場所や誰に報告すれば避難しやすいかよく知っていると思われる。
事務局	災害に特価して何かしなければならないが、現実的にできること、何処の部署で担うのかプランがあがってきていない。
委員	今回は各包括の状況を共有し、災害・防災について現実的なことを知る機会となった。これを地域包括ケア会議及び在宅医療推進協議会（以下「親会議」）で周知する。「親会議」で委員からの提案や危機管理課より新しいマップが配布されたところで改めて問題があれば考えていく。情報共有と周知が課題であるので、今後ケアマネジャーや自治会、民生委員、事業所等から危機管理課の話を聞く機会を計画していくことが必要となる。
委員	大きな災害時の各施設間や各包括間の協力に対して市の後ろ盾は必要である。親会議で具体的などころまでの意見がでるとよいと思われる。
<p data-bbox="448 1603 1235 1637">【次回】座間市地域包括ケア会議及び在宅医療推進協議会</p> <p data-bbox="496 1659 1203 1693">日時：令和2年11月10日（火）18時30分～</p> <p data-bbox="496 1715 1023 1749">場所：サニープレイス座間 多目的室</p>	